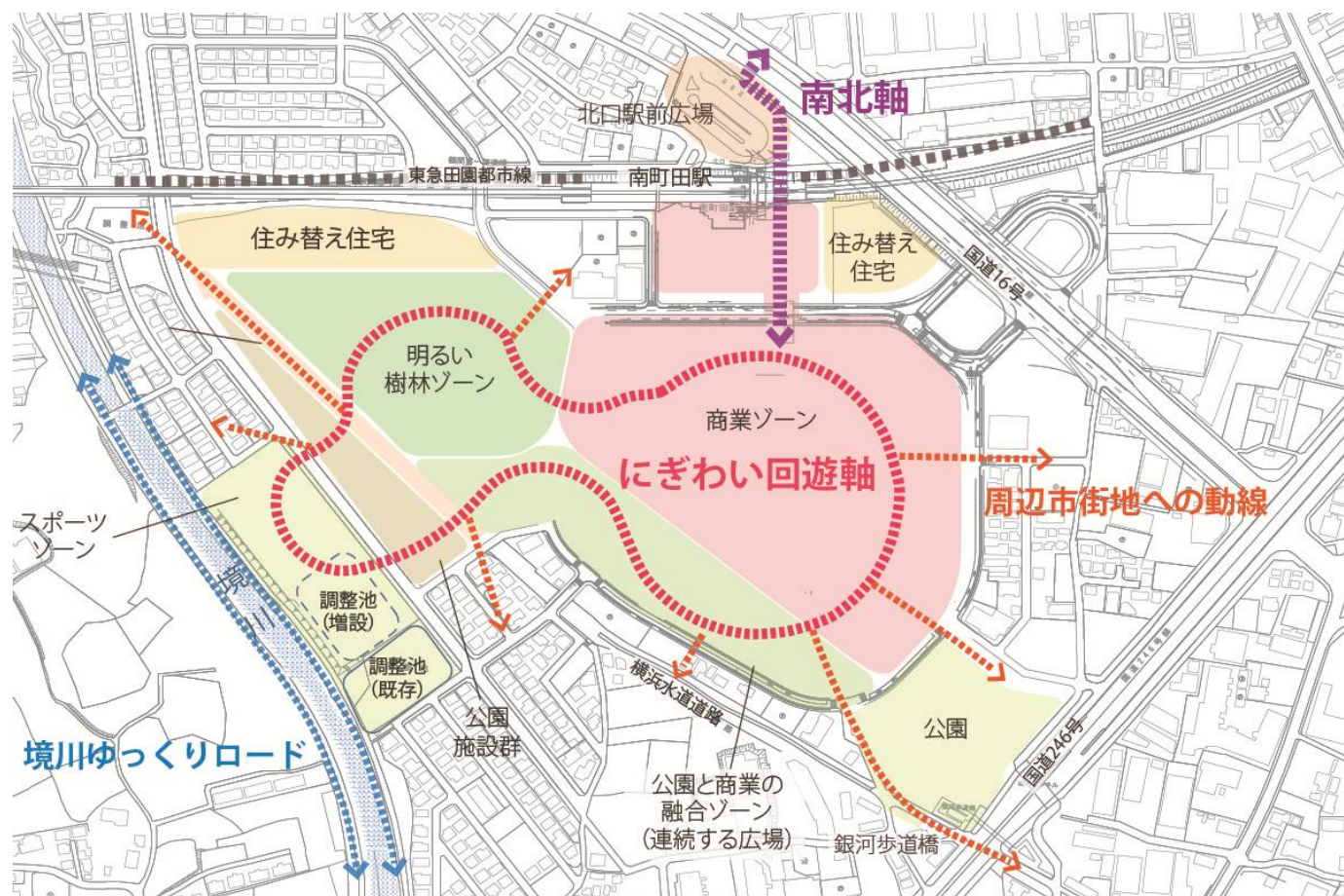
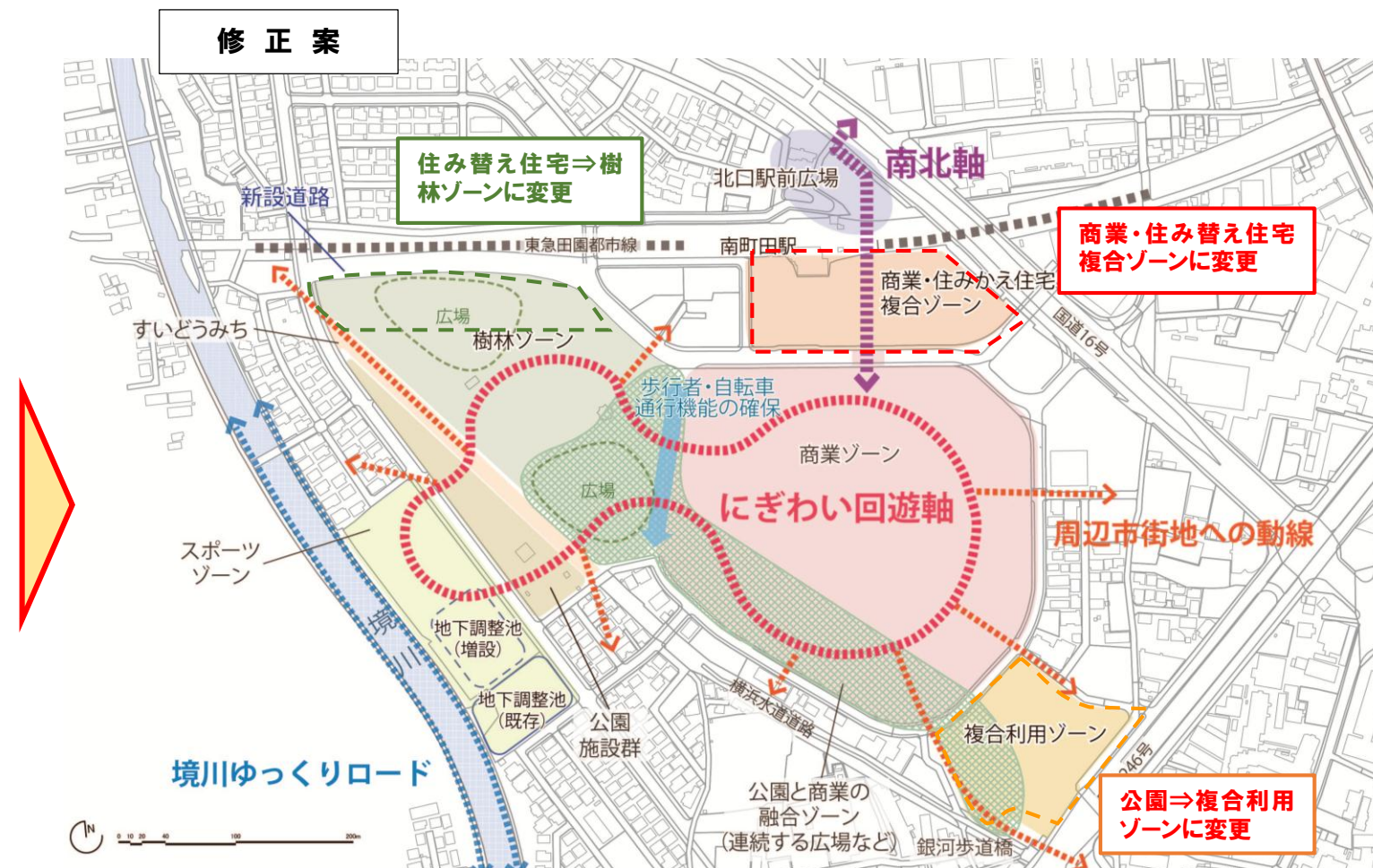


## 方針案



## 修正案



### 【主な見直し内容】

#### ①住み替え住宅の配置の変更

- 鶴間公園 多目的広場への住み替え住宅の配置を取りやめ、住み替え住宅は、駅前の街区に集約して配置する
  - ⇒ 駅前街区は、商業施設(駐車場を含む)と住み替え住宅の複合的な土地利用とする
  - ⇒ 住宅棟は高層化(20~30階程度)することを想定する

#### ②ケースデンキ街区の土地利用の見直し

- 住宅配置の見直しに伴い、東急電鉄と町田市が街区を共同利用することになることから、街区全体の土地利用の方向性を今後継続して検討する
  - ⇒ 国道246号東側の地区と駅方面を結ぶゾーンとして、にぎわい回遊軸からつながる、安全でゆとりある歩行空間を確保する
  - ⇒ 住宅、商業、公共公益機能等を配置していく

- ケヤキ通りを廃止し、線路脇に道路を新設する計画については、「駅前の自動車交通の整理」と「にぎわい回遊軸の確保」の両面において、まちづくりの効果を最大化するため、方針案どおりとする

(理由) ① 駅前で発生する自動車交通を、新設道路を通して都市計画道路(町3・4・37号)に直接流すことで、住宅地内の通過交通を解消する

② 駅、モール、公園が互いに行き来しやすい「にぎわい回遊軸」を形成し、鶴間公園のアクセス性の改善を図る

なお、歩行者及び自転車については、公園内またはモール内を通り抜ける通路を確保する

### 【今後の予定】

- モールは10年間の暫定利用として2000年に開業し、すでに15年が経過しており、設備等の耐久性から施設更新を急ぐ必要がある。100を超えるテナントとの定期借地期限等の関係上、2015年度初頭には拠点整備基本方針をとりまとめ、年度内には、一帯の再整備について各種手続を始めていく必要がある
- 駅前商業店舗として、地域の日常生活を支える施設であることから、短期間での更新を図ることを念頭に、2020年度までの整備完了を目指す